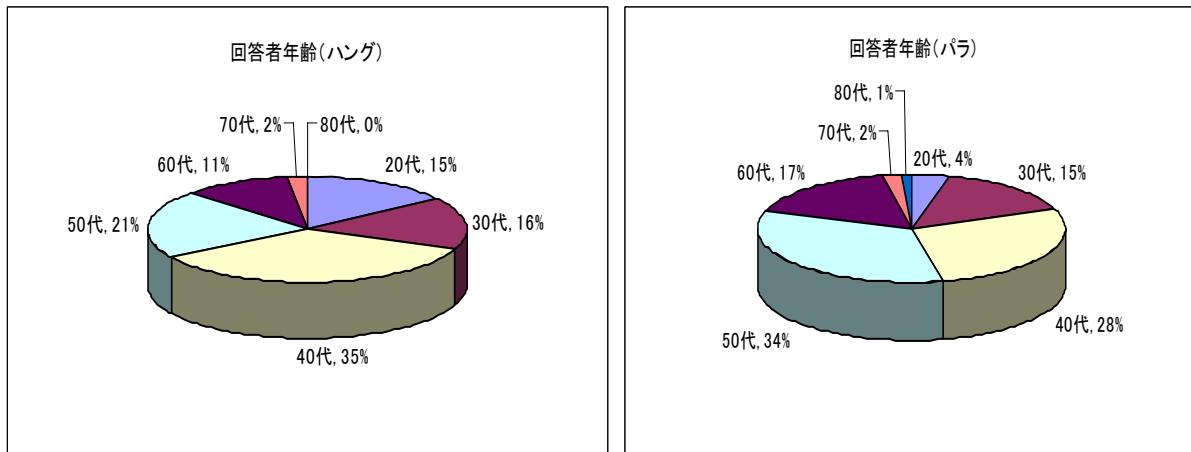


「仲間をふやすためのアンケート」集計結果

JHF事務局では、2008年5月20日発行のJHFレポート189号とJHFウェブサイトにおいて実施した「仲間を増やすためのアンケート」の集計を行ってきました。回答をある程度絞りこめた質問について、お知らせします。

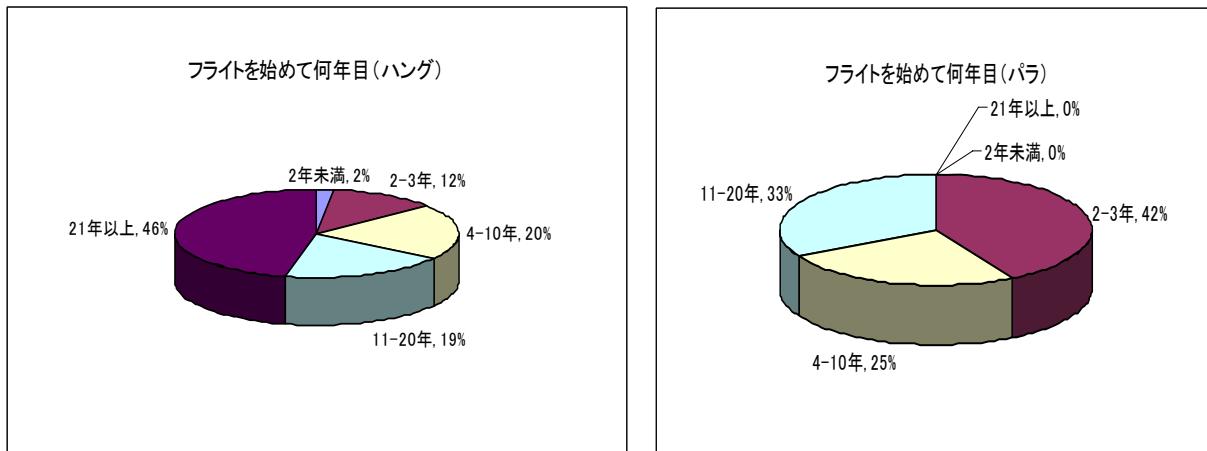
翼別の回答者数と年齢層・居住都道府県



ハンググライダー(以下 HG)89人、パラグライダー(以下 PG)355人、動力付きパラグライダー12人、合わせて456人が回答してくださいました。全フライヤー登録者数の約4%にあたります。

その年齢層は HG、PGとも40歳代と50歳代が多く、実際のフライヤー年齢層に近い数字だと思われます。HGの20歳代15%に対し PG4%というのは、学生 HG フライヤーが積極的に活動している証しかもしれませんが、絶対数が少ないため何ともいえません。PG80歳代が1%（2人）いらっしゃるのは、嬉しい驚きです。『生涯スポーツ』であるパラグライディングを、さらに多くの方が長く安全に楽しめることを願います。また、回答者の居住地分布は、JHF フライヤー会員の分布とほぼ重なりました。

Q.6 フライトを始めて何年目



HG21年以上が46%、PG11～20年が45%、動力付きPG2～3年が42%。いずれも世間で注目された時期に飛び始めた人が多いことを示しているように思われます。また、HG・PGは、かつての賑わいを記憶していて仲間をもっと増やしたいと切実に感じている方々でもあるでしょう。

Q.7 現在所有の機体は何機目

	1-2 機目		3 機目以上	
ハンググライダー	34	38%	55	62%
パラグライダー	81	23%	274	77%
モーターパラグライダー	4	33%	8	67%

HG、PG、動力付き PG、いずれも 3 機目以上が多かったのは、一人前のフライヤーとして自分自身が楽しむだけでなく、積極的に仲間を増やしたいと考えている方々が回答してくださったからでしょうか。PG3 機目以上が 77%と他より大きな割合であることから、それだけ機体の乗り換えが早いことが考えられます。

Q.10 HG・PG に興味を持ったきっかけ(複数回答可)

実際にフライトしているのを見て	173	友人・知人の誘い	86
テレビ番組を見て	77	専門誌を見て	41
一般雑誌を見て	38	インターネットで見て	26
体験フライトの宣伝を見て	22	空をとびたかったから	16
広告看板を見て	12	テレビ CM で見て	7

「実際にフライトしているのを見て」が圧倒的多数です。飛んでいるのを見て、気持ちよさそうだったから自分もやりたくなったという人。簡単そうで自分にもできると思ったという人、さまざまでしょう。HG も PG もモーター付きも、もっともっと多くの人に見てもらう工夫が必要ということです。

Q.13 あなたが感じる HG・PG の一番の魅力はなんでしょうか(具体的に記入)

鳥のように空を自由に飛べること
自然の力での飛行
自然との一体感
地上から離れての浮遊感
上昇気流、下降気流を実感、サーマルに乗っての上昇
無動力で 3 次元空間を移動
のんびり空中散歩
地上からでは得られない空からの景色を堪能
テイクオフの喜び、フライト中の緊張感・爽快感、ランディング後の達成感と開放感
大自然の中で気の合う仲間と語り合うこと

飛行そのもののおもしろさのほか、多くの回答が、自然と一緒にになる喜びにふれています。フライヤーは自然のなかでこそ活力を充填できる人種かもしれません。

Q.14 あなたが練習している／したスクールを何で知りましたか(複数回答可)

友人・知人の誘い	134
実際のフライトを見て	91
専門誌を見て	78
インターネット検索	74
一般雑誌を見て	35
体験フライトで	25
広告看板を見て	25
そこしかなかった	20
テレビで見て	16
JHF・県連資料	3

最も多かったのが「友人・知人の誘い」。空を飛ぶからには、信頼できるスクールだとわかっているところで……ということでしょうか。また、ひとりではなく友人・知人と楽しく練習したいという気持ちもあるでしょう。

Q.15 スクールを選んだ理由は(複数回答可)

通いやすい場所にあるから	253
友人・知人・そこしかなかった・他	132
雰囲気が良かったから	113
エリアが魅力的だから	82
スタッフの質がよかったですから	60
スクール費用が魅力的だから	49
HP の内容が良かったから	12

やはり「通いやすい場所にあるから」が最多です。人口の多い都市の近くで交通が便利なところに練習エリアがたくさんあるといいのですが。「雰囲気がよかったですから」という回答が多かったのも当然のこと。誰でも、よい雰囲気のなかで楽しく練習したいと思うでしょう。

Q.19 スクール受講時に感じたこと、インストラクターに望むことは(具体的に記入)

サービスマインドを持って	54	→機材を売らんかなではなく、やさしく愛想よく、わかりやすく親切丁寧に
不満はなかった	38	→厳しいが的確に、親切、楽しく教えてもらった
教え方の統一、平準化	26	→インストラクターの知識、技術や教え方にはばつきがある、信頼性
教程に沿った一貫性	17	→教程のどの段階にいるのかが不明確、いつ合格するのか
座学をもっと	16	→飛行、気象、リスクなどに関する基礎的な知識や理論
インストラクター増員を	10	→テイクオフ、ランディング両方にいてほしい

一番多い回答が「サービスマインドを持ってほしい」だったのは、HG・PG スクール業界が未だ成熟していないということでしょうか。お客様である講習生に対する言葉遣いや態度など、スクール経営者やインストラクターの皆さんには自己採点してみましょう。

Q.22 安全フライトのためにどのようなことを一番意識していますか(具体的に記入)

無理をしない	156
気象・フライト条件	119
プリフライトチェック	33
一人で飛ばない	9
一番にテイクオフしない	8
エリア状況	7

多くの人が「無理をしない」ことを一番に意識しています。ビギナーもベテランもそれぞれの力の 70% で飛ぶことを、いつでも忘れずにいたいものです。100% で飛んでいて、何か予期しないことが発生したら、冷静に対処できずパニックに陥る恐れがあります。

Q.28 HG・PG を始めてよかったことはなんですか、また悪かったことはありますか

空を飛ぶという子供の頃からの夢がかなった
すばらしい多くの仲間にめぐり合えた
一生続けたいと思うものが見つかった
自然(空、雲、風、景色)との出会い
気象に关心を持つようになった

風待ちなどで辛抱強くなった
ストレス解消

よかつたことに「一生続けたいと思うものが見つかった」という回答がありました。HG・PGに興味のある人にも、このスポーツを知らない人にも、ぜひ聞かせたいものです。

悪かつたことに「家庭サービスがおろそかになった」とあるのは、それだけやましい気持ちで休日はエリア通いをしているということでしょうか。ご家族同伴で楽しめるエリアなら一石二鳥ですが。

Q.30 普及のアイデア(具体的に記入)

マスメディアへ露出度を高める	102
機材価格の低減	86
体験・入門コストの低減	15
もっとかっこ良く・キレイなトイレ	6

マスメディアにもっと露出をという回答が多くありました。テレビ、新聞、雑誌などで紹介されれば、非常に多くの人の目に触れ、HG・PGの魅力をアピールすることができます。また、動画サイトなど新たなメディアでの露出も効果的でしょう。JHFとしてもがんばりたいところです。

「もっとカッコよく」とか「キレイなトイレ」というのは、関心の高まっている他のスポーツの選手たちに負けないようなカッコ良さが、インストラクターや競技で活躍している人達に期待されているということ。また、汚いトイレは誰でもイヤです。興味があつてエリアに来た人をトイレで幻滅させたくないものです。

Q.31 都道府県連盟への加入

都道府県連盟に未加入	218	48%
活動を知っているが加入しない	40	

都道府県連盟に加入していない方が多いのは、Q.32で「存在を知らない」という回答が多かったように、情報不足によるところが大きいようです。

Q.32 都道府県連盟に加入していない理由

存在を知らない
連絡なし
必要性を感じない
メリットがない

都道府県連盟の必要性を感じないという回答が少なくなかったのが残念です。都道府県連盟はJHFの正会員として、各代表がJHFの総会に出席しています。また体験会など普及活動を行っている都道府県連盟も少なくありません。加入するかどうかは別として、何をしているのかのぞいてみてはいかがでしょう。

Q.33 都道府県連盟の活動

県連の活動を知らない	151
------------	-----

都道府県連盟がどんな活動をしているのか、知らない人が多数です。JHFでも各都道府県連盟の活動について、もっと多くの情報をフライヤー会員の皆さんにお伝えすることを考えねばなりません。

Q.34 JHFへのご要望

JPAとの統合或いは関係改善	50	→競技などの共催
JHFレポートの発行継続	41	→発行回数の復活
事故に関する情報と解説	15	→迅速な事故報告と共に、防止に向けてどうすれば回避できたかの解説を
一般フライヤー向け情報	11	→競技指向を修正して、一般フライヤー向けの情報を充実
HP記事の内容充実	4	→安全規格(ENとは)、JPAとの関係、フライトテクニック、何故JHFか、等

皆さまの回答について、JHF理事会で検討していく予定です。